

事例7

家事もこなせ、お元気に暮らしているが、もしもの時の緊急連絡先がない。身元保証・死後事務委任を頼みたい

90代の独居男性。妻は他界。養子縁組した息子とは絶縁状態。

家事全般を自身でこなし、週2回は地域の老人休養ホームへ徒歩で向かい、顔なじみのお友達と過ごすのが何よりの楽しみであり生きがい。

特に持病もなくお元気にお暮らしたが、もしもの時に親族に頼れない。

ご本人情報

[年齢] 92歳

[認定] 要支援2

[病歴] 高血圧症

[ADL] 自立

[経済状況] 年金(24万円/月)
預貯金(600万円)

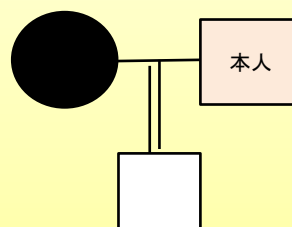
[本人の意向]

・できる限り、住み慣れた自宅で暮らしたい

・老人休養ホームでのお友達との交流を続けていきたい

・もし、自分の足で外出が出来なくなった時には、終活コンシェルジュに施設入所を支援してもらいたい

ご家族の状況



- ・妻は他界
- ・養子縁組した長男とは絶縁状態
- ・アパート住まい

必要とされている支援

施設紹介

入院・入所時の身元保証

遺言書作成支援

死後事務委任

支援内容と動き

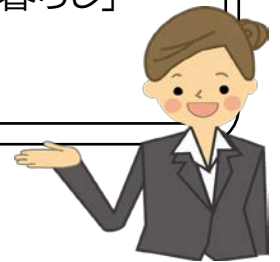
1. ケアマネジャーに同行いただき、アセスメント訪問。身元保証・死後事務委任の支援内容と料金について、納得いただくまでご説明

2. ケアマネジャー、地域包括職員に同席頂き、約款を読み合わせ、身元保証及び死後事務委任契約を締結

3. 定期訪問にて安否確認をおこない、ご様子についてケアマネジャーへ報告、情報を共有。また、施設入所が必要になった場合に備え、入所候補となる施設を並行して準備

4. 万が一の場合、資産処理が円滑に行われる様、遺言書作成をご提案。本人の意向を伺いながら、公正証書遺言作成に向け準備中

サービス担当者会議等で共有した状況をもとに、「本人が望む暮らし」を長く続けていけるよう、支援しています



支援のポイント

- ◎ 社会交流を続けながら、自立した生活ができるよう見守りながら、緊急時や入院等が必要になった時の対応が円滑に行えるよう支援
- ◎ 定期訪問時に感じた日常生活での様子などもケアマネジャーに報告し、サービス担当者間で共有していく
- ◎ 本人が安心して最期を迎えられるような支援

